

**問** 本年10月に愛知県大府市との交流都市締結の調印式が予定されているが、今後の交流や、その他の交流都市との交流はどのように進めていくのか。

**答** 大府市においては、市制施行40周年、当市は新市施行5周年という節目の年であり、10月1日の遠野市市制施行5周年式典の中で調印式が予定されている。大府市においては、大府市産業まつりと併せて「1日遠野デー」を計画中である。その他については、国際交流により異なる文化に触れ、見聞を高めることは国際感覚を身に付ける上で大切であり、目的達成に向けマンネリ化にならないよう、内容を精査しながら推進する。

た「遠野市農林水産振興ビジョン(タフビジョン)」は、農業者の高齢化や人口の減少により担い手不足、後継者不足の問題解決が必要と思われるが、具体策はあるか。

**答** 「7つの目指すべき姿」を掲げて足腰の強いタフな農林水産業を目指す。4月からASTを遠野地区合同庁舎に移転し、遠野農林振興センターを加え4つの関係機関が連携して取り組んでいる。農業従事者数は平成17年は60歳以上が75%であり高齢化は進んでいる。農業就業人口は3,418人で、平成7年より1,900人以上減少している。これらを踏まえ、地域ぐるみの農業や認定農業者、集落営農の組織化などに支援していく。また、新規就農者に対しては、4人のア

## 都市間交流の今後は



照井文雄 議員 (清風会)



復旧が進む耕作放棄地

**問** 本年度の異常気象による風災害をドバイザーを配置して関係団体と連携し、指導・支援を行う。また、農産物加工施設が整備されることから、運営や販売面にも支援をしたい。農業生産、農業所得、雇用拡大に繋がるものについては、個人・法人を問わず積極的に支援する。

**答** 遠野市地域防災計画により点検・調査・避難指導等行っている。河川内の立木については、管理者等と協議をして伐採撤去・管理整備を行う。